

科学研究費補助金（学術創成研究費）研究進捗評価

課題番号	17GS0208	研究期間	平成17年度～平成21年度
研究課題名	宇宙天気予報の基礎研究		
研究代表者名 (所属・職)	柴田 一成（京都大学・大学院理学研究科附属花山天文台・教授）		

【平成20年度 研究進捗評価結果】

該当欄		評価基準
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

（評価意見）

ひので衛星により観測された、発信源としての太陽活動のデータ解析やシミュレーション研究の成果は高く評価できる。なお、これらの解析結果と地球磁気圏・電離圏を結ぶ階層間結合モデリングの具体的研究目標と達成度が明らかとは言えない。

また、宇宙天気予報を標榜するならば、数値的な達成度の目標も示すべきであろう。

今後はバーチャル観測所の体制構築を実質的に目指すための具体的課題に的を絞った議論が必要と思われる。

【平成23年度 検証結果】

検証結果	研究進捗評価結果どおりの研究成果が達成された。
A	<p>太陽エネルギーの開放過程に関する研究では、「ひのでサイエンスセンター」の整備を進め、光球ジェット、黒点半暗部ジェット、極域 X 線ジェットなどを新発見するなど、太陽大気構造と磁気活動やコロナの成因の解明に貢献した。さらに、太陽フレアの発生からコロナ質量放出の形成過程までを総合的にシミュレーションすることに成功している。以上のことより、期待どおりの研究成果を挙げたと評価する。</p> <p>一方、本研究の出口である宇宙の放射線環境の予報は大変インパクトのある目標だが、宇宙天気図の作成とバーチャル観測所の立ち上げに関して展開が不透明であり、さらなる研究の展開を期待する。</p>